



## ～都城市庄内町編～

橋本まで都城を治めていた都城島津家。庄内町には、そのルーツを訪ねながらまちあるきできるコースがある。「新日本歩道紀行 歴史の道」にも認定されている古い街並みを散策した。

もちなが邸向かいの路地にある簡素茶室の石蔵。明治後期、用水路沿りのために呼ばれた鳥取の石工が移り住み、地区のあちこちに築いた石蔵が残る

郡城島津家初代北郷家忠貞こうけだの墓や六代敏久が築いた安永城の跡など、島津家のルーツが色濃く残る都城市庄内町。明治初期に地頭として赴任した三島運備（しみまのり）が現在の町の基礎を築いたといわれる。

地域の歴史に詳しい庄内地区まちづくり協議会の執行役員事務局長（四）を訪ねた。庄内は郡城島津家と三島運備をのり人によってできた町。市の中心地より栄えていた時期もあったようですと教えてくれた。朝食さんが所属する郷土史研究グループは、郷土愛を育むため庄内中1年生と史跡を巡り、歴史を伝える活動もしている。

それでは史跡巡りに出発します。庄内地区公民館の向かいにある釣環院（つりわん）跡に、七代北郷家敏久の菩提場として守導で北郷家二代、四代、五代、七代の墓がある。次に三島運備遺徳碑へ。庄内小学校の正門脇、イチョウの下に建つ石碑群の一つ。三島氏の功績を聞いていたため、石碑を見るだけでも感慨深い。さらあるきマップを見ると、馬場と付く跡地がいくつかある。住民のために三島氏が整備した生活道路である。

峠（から）馬場の先、熊鷹（くまたけ）とは神社の境内にあるのは山久院（みやまひさのいん）。北郷家忠の菩提寺だったが、薩弘毅（さくこうぎ）の折に廢寺となり、今では資忠夫妻の石塔のみ

1. 朝齋二さんは、郷土史を研究する「庄内の昔を語る会」に参加。中学1年生に配布する「庄内歴史図本」にも関わる（庄内地区まちづくり協議会 ☎0986-37-3488）。2. 北郷家の墓に立つ。3. 三島運備遺徳碑は、日曜歴史記念碑や庄内空襲の碑などと共に立つ。4. 町家カフェもちなが邸ともちなが邸が昭和1100円（都城市庄内町12625 ☎0986-37-0002）。5. 92歳の石蔵の石の上に本蔵がある。東坊神社（都城市庄内町12360 ☎0986-37-5575）。6. 熊鷹寺文化財に認定された山門は道路から数分。都城市庄内町12467 ☎0986-37-0567。7. Meet-onには無料の貸し出し電動工具があり、地域の作業室として利用できる。（都城市庄内町12634 ☎0986-77-8488）

が残る。宮前馬場をしばらく歩くと諏訪神社の鳥居が見えてきた。資忠が創建した神社だ。「毎年11月には薩摩藩主・島津重豪を奉納していましたが、コロナで今年もご神事だけに」と権瀬直三（なんぎの）荒川内福二（ふくじ）さん（69）も残念そうだった。

天拝馬場を南に下ると高い木の茂る一角が。本堂と山門が国の登録有形文化財に指定されている願心寺だ。「明治7年に正式に創立されました。庄内にこんな大きな寺があることに驚く人は多いですよ」と住職の大河内隆之さん（た）。

願心寺を出て間もなくもちなが邸が見えてきた。門石も石蔵も居棟は国の登録有形文化財だ。居敷が売却される際、地域の財産を守るろうとNPO法人を立ち上げ、カフェとして運営を始めたのが浦生芳子（よしか）さん（た）。地元の食材とみそなどの発酵食品を使った料理を提供しています。野菜たっぷりの白あえや郷土料理「かむ」などをいただき満腹だ。

最後に朝食さんが紹介してくれた「Meet-on（みーとん）」を訪ねた。「みんなできるとるをキーワードに、コロナクッキングスペース（共有オフィス）やDIY（日曜木工）コーナーを備えた地域交流拠点だ。古い街並みだけでなく、新しく築き直された未来と続く息吹を感じた。